

3 はな 花なくして実あり。花はいったいどこにある？

イチジクを育ててみるとわかるけれど、葉のわきにできたつぼみのような実のようなものが、そのまま大きくなって、花も咲かせることなく太って実になってしまうように見えるね。それで、むかしの中国の人は、イチジクのことを花なしで実るくだものという意味の「無花果」と名づけたんだよ。

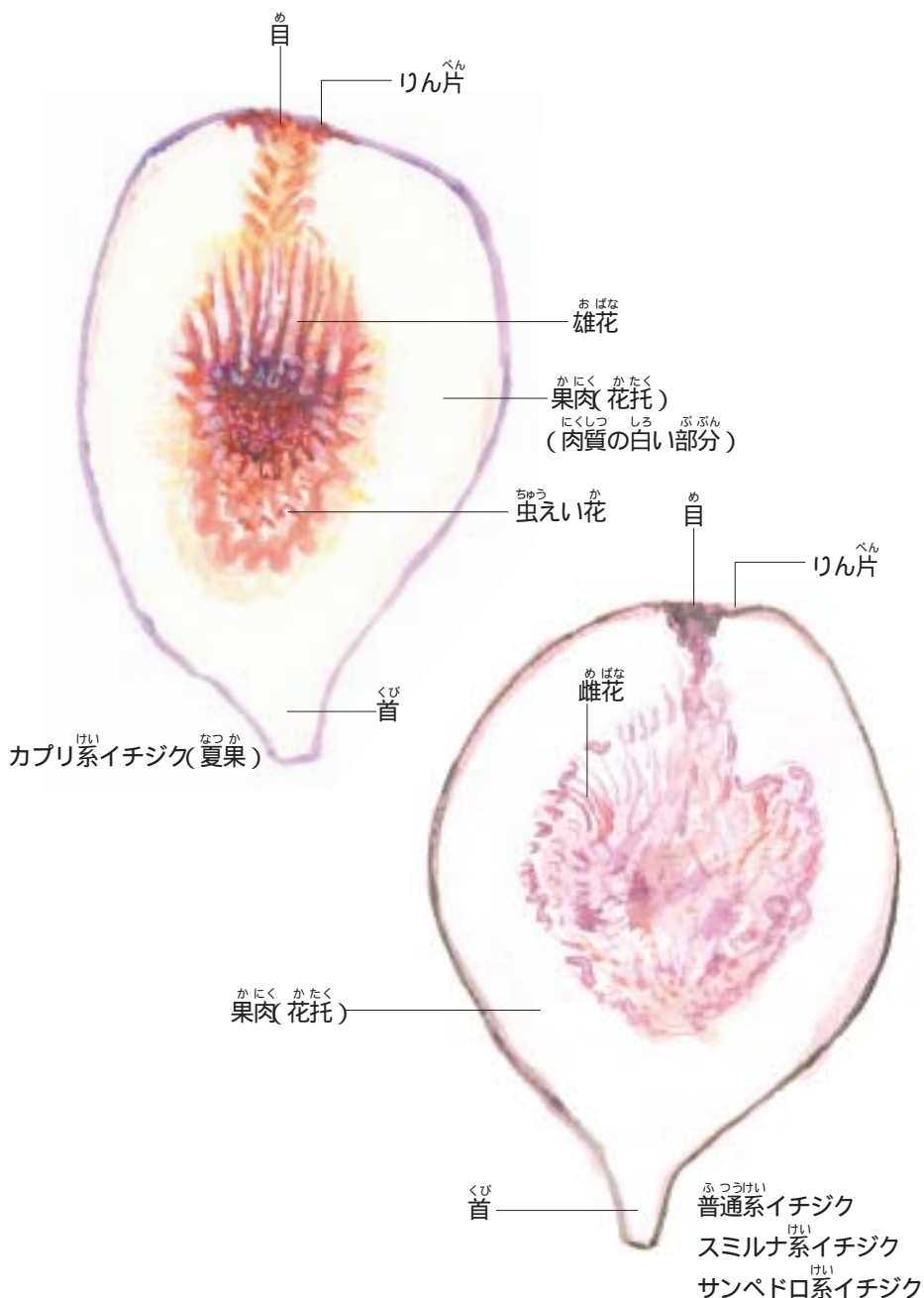
でも、ほんとうはみえないところで花は咲いているんだ。いったい、どこで咲いているのだと思う？
じつは、果実の内側に向かって咲いているんだ。ふしぎだね。それでは、どうやって受粉するのか？

花はどこにある？

イチジクは古くから「花なくして実あり」といわれてきたんだ。でも花は外からみえないだけで、ほんとうはカップ状をした肉厚の白い内壁(花托)にたくさんの花をつけて咲き、実になるよ。でも、系統によって、花のつき方や咲く時期、実のでき方がいろいろなんだ。なんともふしぎな果樹だね。

実の中をのぞいてみよう

イチジクの実をたてに割って中のように観察してごらん。イチジクの果実と呼んで食べているのは、肉質の白い部分と、その内壁にたくさんついている花の部分だ。果実と思って食べているところは、ほんとうの果実ではないんだね。このような果実を偽果(にせの果実)というんだ。花の数は、2000～3000個もあるんだ。この小さい花のめしべに花粉を授精してやれば実を結び、その中に小さいタネができてほんとうの果実になるんだ。受精しないめしべはかたくなり、胚や胚乳をふくまないタネみたいなものができるよ。これは、ほんとうのタネではないけれど、ふつう、わたしたちが食べるときには、これをタネと呼んでいるんだね。





はなは、3種類ある
イチジクの花には、3種類あるんだ。花柱が長い雌花（ふつつ、雌花とよばれている花）、花柱が短い雌花（虫えい花）それと雄花の3種類があるよ。系統によって、つく花の種類がきまっています。雌花と虫えい花をもつのは、カプリ系のイチジクだけだよ。普通系、スミルナ系、サンペドロ系のイチジクは雌花しかもたないんだ。くわしくは、10～11ページをみてね。

じゅふん 受粉には、イチジクコバチがいる
虫えい花は、イチジクと共生関係にあるイチジクコバチが産卵し、その幼虫が育つことができる、ただひとつの場所なんだ。日本で栽培されているイチジクはほとんどが普通系イチジクで、受粉しなくても実が太るので、イチジクコバチによる受粉の必要はないんだ。でも、野生種のカプリ系イチジクなどが実をならせるためには、イチジクコバチが寄生して受粉する必要があるんだよ。

おばな
雄花



ちゅうか
虫えい花



めばな
雌花

